

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372700924		
法人名	社会福祉法人 蘇清会		
事業所名	グループホーム あいらく		
所在地	熊本県上益城郡山都町滝上223-1		
自己評価作成日	平成30年3月10日	評価結果市町村報告日	平成30年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成30年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

阿蘇山を一望できる高台に位置し特別養護老人ホーム蘇苑苑の併設施設である。日頃より利用者と一緒に過ごす時間を大切に家庭的な環境を忘れずに安心して生活を送って頂ける様に支援している。食事面では日頃の会話の中から嗜好を聞き取りメニューに取り入れている。日曜日の昼食時は職員も一緒に食事をしてゆっくりと共有の時間を過ごせるようにしている。行事面では併設の施設訪問にも積極的に参加しホーム独自で四季に応じた行事ごとを計画して楽しみが多く出来る様に支援している。安全面においてはスプリンクラー・火災通報装置を設置し共同で訓練を行っている。職員には消防署・防災関連機関からの指導の下、訓練や説明を受けながら災害時にも速やかに行動が出来る様に指導している。医療看護面は併設の看護師の協力もあり緊急時の対応の指導や日々の状態の変化にも対応が出来る様にしており月1回協力病院からの往診があり、年1回は健康診断を実施し状態の把握に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宮崎県との県境に位置する事業所は、法人福祉施設の一事業所として運営されており、事業所間の連携がとれ、安心した生活が送られている。年々高齢化が進み今では約半数が90歳代となり、個々のケアにあたる時間が増えてきていることから、この3月から町のシルバーセンターより週2回人材を受入れ食事作りを依頼している。入居者の生活では「少しでも歩いてもらいたい」と、車椅子利用者にも出来る限り歩行の支援や椅子への移乗を行い、車椅子に頼り切らない様、職員の対応を行っている。「聞いてくれない(聞いてちょうだい)」と入居者から職員への声掛けも見られる様で、日頃の「寄り添い」を大切にしている様子が窺えた。その様な中でも、地域や家族、来訪者との関係作りには継続して力を入れており、運営推進会議への家族の参加率の高さ、また参加者による大掃除や清掃活動は、皆で入居者を支える様子が伝わってくる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念の唱和を行い職員が共有をするよう努めているが実際のケアに行かされているか確認や反省等振り返りを行っていない。	理念は職員で唱和を行い、来訪者にも見やすい場所に掲示している。介護計画は理念を念頭に作成しており、入居者一人ひとりのケアの基本と考えている。	職員間の共有は「唱和」を基に図られている様です。日々の業務が理念に基づくものであることを職員間で共有するため、介護計画を通じた入居者への思いを職員会議等で話し合っはいかかでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設での近隣の学校や諸団体の訪問時には積極的に参加を行っている。地域に向き活動する事は少ないが祭の際は法人枠でスタッフも参加を行っている。	周辺環境や入居者の状況から、外出による日常的な関りは難しくなった。地域病院への通院や入居者それぞれの面会家族、隣接事業所利用者の相互訪問等が地域との関わりとなっている。地域の祭りには職員が参加し、事業所として地域の付き合いを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への啓発活動は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動報告や利用者の状況報告の他、年間計画を立て清掃活動や年末の大掃除等協力をしてもらっている。	運営推進会議には全家族に毎回参加の声掛けを行っており、参加も多い。会議参加者は皆が事業所の支援者となり、年末大掃除や門松作り、地域福祉の在り方のDVD鑑賞等、趣向を凝らした内容が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でも解らない事があれば相談に乗って貰い意見をもらっている。それ以外にも直接連絡を取ったりして協力関係を築ける様に努めている。	運営推進会議にも参加があり、議事録も提出している。入居者の状況報告・相談だけでなく、事業所の体制等も相談しながら、協力関係構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃より疑問に思った事は職員間で話し合う等して拘束をしない様に努めている。玄関の施錠は夜間及び深夜帯スタッフが1名になる為防犯面も兼ねて施錠している。	「身体拘束をしないケア」の徹底を行っている。現状、全体的に入居者の活発な行動が減ってきており、職員のケアにおいても心配な事例は無い。気になる時には職員同士意見を出し合う体制が整っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が意識を持ちみんなで注意する事で虐待がない様に努めている。しかし声掛けの際に注意すべき点がみられる事もある。		

グループホームあいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項等の説明は懇切丁寧に御家族に不明な点がない様心掛けている。改定時にはその都度通知を行い不明な点があれば何時でも答える様になっている。退所時にも必要であれば各機関と連携を行い御家族とも連絡を取り合いながら対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動には些細な事でも目を配り察する心遣いに努めている。御家族の面会の際には日々の暮らしぶりを伝え御家族からも意見を言い易い関係を築くよう努めている。また、運営推進会議にも参加して頂き意見を聞く機会を設けている。	家族へは運営推進会議や行事への参加、面会時に職員からの声掛け等、出来るだけ会話をもち、意見を得る機会としている。介護計画更新前には「生活意向調査」を行い、満足度・意見・希望を書面にて確認し、介護計画に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を開く際には職員の意見を聞く機会を設けたりしている。業務別で担当者を決めて会議を行い意見を取り入れ反映させている。また、管理者は業務中でも職員の意見を聞く機会がありその都度話し合いをしている。	月1回の会議を基本としており、意見を持ち寄り共有している。日常的に管理者は職員の意見を聞く姿勢を持っている。最近の職員の意見で、入浴が困難になった入居者のことを思い、リクライニングシャワーチェアの導入について要望を出し、購入に至った例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材確保が出来ず、人員体制が整っていない為十分な休日確保が出来ていない。また、突発的な職員の休みで人員基準が満たされない時がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会には積極的に参加してもらい外部の研修にも参加してもらい学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上益城部会の連絡会に参加し交流を図っている。また、近隣の同業者とも連絡を取り合いながら質の向上に努めている。しかし地域の各関係機関からなる地域担当者会議が月1回行われているが勤務上都合が付かず参加出来ていない。		

グループホームあいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に本人の要望等を把握する様に努めている。入所後は環境の変化で落ち着かれない事もあるので本人に寄り添い、常に声掛けを行いながら何か不安な事や心配事はないか尋ね本人から言い易い環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に施設見学等で来られた時や契約時には注意点や要望等を尋ねる様にしている。また入所後も面会等に来られた時にはスタッフ側から声を掛け不安な事や要望等はないか尋ねながら御家族が言い易い環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	重要事項等を十分に説明した上で本人の生活環境・習慣を把握し状態や要望、御家族の要望に沿ったサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中その人一人ひとりが出来る役割を見つけスタッフとお互い協力しながら生活を送る事で良好な相互関係が築けるよう努めている。しかし、時折声掛け等が一方的になりがちな面があり注意をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等に参加をして貰い一緒に過ごす時間を作り共に支援をする機会を作っている。面会に来られた時にもリビングか自室にてゆっくりと過ごして貰い絆を深めて貰っている。解らない事があれば職員側からも相談を行い互いに支えあう関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの希望があれば御家族へ連絡を取り外出の機会を設けたり、職員が付き添い出かけたりしている。また、馴染みの方が面会に来られた時にはゆっくりと過ごして頂き、併設のデイサービスに来られた時には遊びに行ったりして途切れない支援をしている。	併設のデイサービス他事業所の利用者との関係が続いており、相互訪問により交流を継続しており、病院通院時には地域の方々と会うことも多い。また家族との関係を大切にしており、家族の面会・来訪を支援している。	家族の面会も多く、入居者・来訪者・家族と入居者を支える事業所全体が家族である様に感じました。運営推進会議参加者の関わり等も深く、今後も継続した取組みに期待しています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性を職員が把握しながらコミュニケーションを取り、孤立する利用者が出ない様配慮したり、職員が間に入ることによって利用者同士が助け合いより良い関係が築ける様に努めている。		

グループホームあいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了するとほとんどの御家族が関係が途切れる。しかし、併設の特養に面会に来たついでにと家で作ったスイカを持ってこられたり、ボランティアの希望があったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で会話をしながら本人の希望や意向を把握できるように努めている。会話が困難な方には御家族に意見を聞いている。しかし、本人からの言葉でも表情や態度を観察しながら本心で話されているのか見極める様になっているが十分に意向を汲み取れていない時もある。	職員は日頃の生活の中で入居者との寄り添いを大切にしており、共に時間を過ごすことで意向の把握に努めている。面会時や、特に介護計画見直し時には家族とも話し合いを重ね、入居者それぞれの意向を第一とした介護計画を作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族より今までの生活歴や暮らしぶりを聞き取り、また在宅ケアマネージャーや各関係機関からも情報を提供して頂きながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の訴えを聴いたり、こちらからアプローチをして好まれる事や持っている力の把握に努めたり本人へ寄り添い観察しながら心身の状態の把握に努めている。変化がある時には職員間で話し合ったり、個別記録や申し送りノート・日誌の特記事項に記入をして職員全員が共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族に意見を伺い介護計画を立てている。更新時にはケア会議を開き、職員からの意見を反映する様に努めている。	毎月全職員でモニタリングを行い、介護計画についての情報を共有している。半年毎の介護計画見直しには職員で会議を開き、また家族の意向も収集し、現状に即した計画の作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング記録を各担当に記入をしてもらい更新時にそれを基にケア会議を開き介護計画に活かせるようにした。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用共同生活介護は指定を受けているが、現在までに利用されたことはない。		

グループホームあいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や御家族・運営推進会議などで意見を貰い地域資源の活用に努めているが運営推進委員や御家族の協力が多く他の地域資源の活用は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約病院から月1回の定期往診があつている。往診の医師とは別のかかりつけ医がいる利用者には定期受診を行い、それぞれ現在の病状や生活の様子などを伝えて適切な医療が受けれる様に支援している。	基本的に入居前のかかりつけ医受診を支援しているが、現状では全員が協力医である。協力医からは毎月定期往診があり、歯科も往診で対応可能である。専門医受診は職員の通院介助が多い。年1回、歯科検診を実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に状態の変化があれば随時特養の看護師に相談をして指示を受けたり直接見てもらったりしながら適切な看護が受けれるように支援している。また受診後も看護師へ報告し情報を共有しながら共に支援している。また、夜間帯も連絡が取れる様に協力をして貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された時には病院へ情報を提供して適切な医療が出来る様にしている。入院中も面会に行った時には病院関係者と連絡を取り遠方で頻りに面会が出来ない時には電話連絡を行い病院の担当者と情報を交換している。また、地域担当者会議に地域の病院が参加をしている為、その際情報を交換することが出来る様になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には口頭でホームの方針は説明しているが契約事項等には詳細に記載しておらず体制的にも十分とは言えない。	入所時に入居者・家族へ口頭で説明している。現状は医療が必要になった場合、病院へ移転となり、看取りはなかった。現状の高齢化、看取りを希望された時のことを考え、事業所としての対応を職員で話し合っており、訪問看護等を利用し、支援を行うことにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時にはマニュアルに準じて対応をするようにしている。併設の特養にてAEDの講習もあつているが定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は築いていない。併設の施設と合同して年2回避難訓練を実施している。ホーム独自でも避難訓練を実施して地元消防団に協力もしてもらった。	今年度は、従来の法人合同の避難訓練に加え、事業所単体での訓練を行った。一昨年の熊本地震を振り返り、法人内で地震時の対応について話し合いを持った。避難訓練では地元消防団員に車椅子を押してもらったり、事業所を見てもらったりと、協力体制作りにも努めている。	熊本地震では、自事業所内での安全確保が第一でした。火災だけでなく、自然災害も考え、また夜間一人体制時等、様々なケースでの訓練が必要と考えます。

グループホームあいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが意識を持ち個人を尊重した声掛けを行っているが、時折不適切な声掛けや対応が見られることもあり、今後も研修や勉強会をする機会を設け、より適切な対応が出来るように努めていきたい。	入居者のトイレ使用時、入浴時等には特に言葉遣いや態度に配慮している。生活面では、居室のオムツは入口から真正面に見えない向きに置く、ベッドには衝立を置き丸見えにならない様にと、安全を確保しながらもプライバシー確保の工夫が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちや思いを汲みとりながら言葉掛けに注意を払い自己決定が出来るような環境作りに心がけている。しかし、本人の行動を妨げるような言動が観られる事もあり勉強会などを通じて、もっと理解を深めていく必要がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望がある方にはそれに沿った過ごし方を、訴えない方にもその日の体調を考慮した上で尋ねながら、その人に合ったペースで過ごして頂けるように支援している。しかし、職員の都合や考えで利用者の行動を制限することがあり改善する必要がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃の身だしなみは気を付けている。個人によっては入浴後の着替えの服を選んでもらう事もあるがほとんど職員が行っている。行事の時には化粧やお洒落をして貰っているが以前会議にて化粧をする日を作ったらどうかという意見があったが実現出来ていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話の中で何か食べたい物はないか話をして献立に加えている。出来る方には下拵を手伝って貰ったり準備をしたりしている。日曜の昼食は職員も一緒に食事をして食卓を囲み会話をしている。また、片付けにはお盆拭きや茶わん拭きをして貰い力を活かす場面を作っているが特定の利用者に偏っている。	全食とも職員による手作りで、季節感を取り入れた入居者に慣れ親しんだ献立が考えられている。年々準備や片付けに参加できる入居者が減り、また食事介助が増えてきている。食事中は職員も一緒に席につき、共に時間を過ごすことで好みや状況を把握している。	誕生会には家族を招待し一緒に食事を楽しむ等、食事を大切な生活の一部として取り組まれています。気軽な外出が難しくなった環境もありますので、家族と共に過ごす大切な思い出の時間として継続して欲しいと願います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員側の観察や利用者からの訴えにて随時食事形態を変更していくよう支援している。食事チェックをケアチェック表上に記載欄を設けているが記載に漏れがあり統一していない。また嚥下の状態に合わせトロミを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。準備のみの支援や義歯の洗浄など、一人ひとりの力に応じて支援している。しかし、拒否が強い時には出来ない時もあるが以前に比べ口臭が強い方はいなくなった。		

グループホームあいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して個々の排泄間隔に対応した声掛けをしている。また、利用者からの訴えがある場合には直ぐに対応しその人の行動を見逃さないようにしている。しかし、時には時間が開き過ぎており失敗されている事もあるが自尊心を傷つけないように声掛けをして対応している。	排泄チェック表を利用した早めの声掛けや入居者のしぐさ等により誘導を行っている。オムツ・パットの利用も増えてきた。夜間トイレを利用する入居者には、安全を考え、家族同意のもとセンサーを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて便秘を促せる飲み物を活用し、体操を行う時には腹部への刺激となる運動を取り入れている。また、排便が困難な方には主治医の指示の下、下剤を使用したり、特養看護師に相談をして対応をしている。下剤の服用も個々の間隔に応じて行い、不具合が出た場合は当日の出勤者で随時話し合い対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日の入浴者は決められているが本人の意思や状態に応じて対応している。しかし職員体制が不十分な日もあり入浴が出来ない事もあった。	年々、全体的に介助が必要になってきている。浴槽に浸かれない場合でも、シャワーチェアやリクライニングシャワーチェアを利用し、気持ちよく過ごして頂く様に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態や状況、本人の希望に応じて環境を変化させている。居室で休まれる時には見守りを怠らず、ホールのソファで休まれる時にはクッションなどを使い気持ちよく休んで頂けるように支援している。また夜間帯も足音を立てないように配慮しながら見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している処方箋は個人別にいつでも職員が確認できる場所に保管しており共有できるようにしている。症状に変化がある時には特養看護師に相談したり、主治医に報告をして指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般の作業の手伝い等、日常生活の中で本人が出来た事を見つけ出し役割を持った生活を送って頂ける様に支援している。また、ホーム内での体操・散歩等や併設施設の行事参加を積極的に行う等、楽しみのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度は季節の外出が出来ていない。美容室、特養までの散歩等要望がある方への支援は出ている。また、御家族の協力が可能な方は外出出来ているが、その他の利用者への支援が出来ていない為、希望や想いを汲み取りながらその人に合った外出が出来る様に取り組んでいきたい。	入居者の状態で、計画行事だけでなく、日常的な散歩等の外出も難しくなっており、庭での外気浴や併設事業所の訪問程度が多くなってきた。車椅子利用者も増えたことで、家族との外出も難しくなっているのが現状である。家族へ協力依頼の声掛けは継続して行っており、誕生日の自宅訪問等、出来るだけの外出支援に取り組んでいる。	

グループホームあいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所有している方がおり希望時には一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば電話を掛けて自由にやり取りをしたり、掛かってきた時には本人へ取り次ぎ話ができる様に支援している。手紙のやり取りは出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光を取り込みながら明かりの調節も利用者に伺い行っている。毎食後掃除を行い、悪臭等しない様に消臭剤を使用して不快な思いをされないように配慮している。ホールは季節感のある飾りつけや、その季節に応じた花を飾り見た目と香りで季節を感じて頂けるように配慮している。テラスにはプランターを設置して季節に応じた花を飾り、廊下には利用者の行事や日々の暮らしの写真を飾っている。	木造で明るい共用空間は温かな雰囲気、廊下には毎月の行事の写真が貼られ、日頃の入居者の様子が窺えます。入居者は思い思いの場所で過ごし、ゆったりと過ごしている。廊下が広く、車椅子の利用もスムーズである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共通の空間には和室とリビングがある。リビングには、椅子とソファがあり、それぞれが過ごしたい場所で過ごされ一緒に洗濯物たたみ等の作業をしたり、隣同士で話をされたりして過ごされている。和室には炬燵を設置しており自由に出入り出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には使い慣れた物や馴染みの物などを持って頂くように促している。また、面会時の写真を飾ったり記念品や本人が好まれる物を飾ったりしている。面会に来られた時にも一緒に過ごして頂けるようにしている。	居室には毎年の誕生日を祝う職員手書きの色紙が飾られており、事業所での生活の流れが窺える。入口ドアを開けていても中が丸見えにならない様に、ベッドの間には衝立を置いたり、また備え付けられているオムツやバットの置き位置も考えられたりと、プライバシーにも配慮がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はフラットにて車椅子を自由に自操が出来、廊下には不必要なものは置かず、手すりが設置しており、つたい歩きが出来やすいようにしている。ベッド周りも本人の状態に合わせて、個々に変化をさせている。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあいらく

作成日 平成 30 年 4 月 26 日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	昨年度は火災避難訓練を独自で行う事が出来たがその他の災害対策については実施できていないところがある。	火災以外での災害対策を職員が共有し有事の際に誰でも実行できる力をつける。	※カンファレンスにてGHでの起こりえる災害を検討し、それについて話し合う。 ※災害を想定した訓練の実施。 ※実施後の反省点を挙げマニュアル化する。	12ヶ月
2		理念の共有は出来ているが、それを具現化されたケアを職員が理解し共有できていないところがある。	カンファレンスにて個々の介護計画を通じ基本理念と介護計画の関連性を理解しケアを行う事が出来る。	※ケース会議にて介護計画作成後、基本理念と照らし合わせながら理解を深めていく。 ※介護計画に記載されている内容以外でもその人にとっての基本理念に沿ったケアとは何か考え常にカンファレンスにて意見が出る体制を作っていく。	12ヶ月
3					
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。